

# H1N1パンデミックと広報・報道

朝日新聞 編集委員 浅井文和

2010年4月12日

第2回新型インフルエンザ(A/H1N1)対策総括会議

私が過去  
に書いた  
記事

1997年  
1月10日

朝日新聞  
科学面

新感染症学

インフルエンザ

ヒト型と鳥型が交雑

ブタ体内で新ウイルス?



中国で新型インフルエンザウイルスの検出が発表された。このウイルスは、ヒト型と鳥型のインフルエンザウイルスが交雑して生じたと考えられている。また、ブタ体内でこのウイルスが検出されたという報告もある。この発見は、新型インフルエンザの発生リスクを高める可能性がある。各国政府は、このウイルスの拡散を防ぐための対策を急いで実施している。

中国で新型インフルエンザウイルスの検出が発表された。このウイルスは、ヒト型と鳥型のインフルエンザウイルスが交雑して生じたと考えられている。また、ブタ体内でこのウイルスが検出されたという報告もある。この発見は、新型インフルエンザの発生リスクを高める可能性がある。各国政府は、このウイルスの拡散を防ぐための対策を急いで実施している。

中国で新型インフルエンザウイルスの検出が発表された。このウイルスは、ヒト型と鳥型のインフルエンザウイルスが交雑して生じたと考えられている。また、ブタ体内でこのウイルスが検出されたという報告もある。この発見は、新型インフルエンザの発生リスクを高める可能性がある。各国政府は、このウイルスの拡散を防ぐための対策を急いで実施している。

# H1N1インフルエンザの初期報道 (2009年4月、メキシコ・米国で患者)

一体、何が起きているのか、どうなっていくのか？  
正確な記事を書くため科学的な状況判断に専念した

- 頼りになったのはWHOの電話記者会見
  - 対策の責任者であるケイジ・フクダ博士らが事実とWHOの対処方針を世界の記者に直接説明し、質問に答えた
  - 取材チームでWHO担当記者を決めて会見を聞き続けた
- WHO、米国CDC、英国保健省などのWeb
- 医学誌 *New England Journal of Medicine* 等
- 国内専門家の意見 ウイルス学、臨床、公衆衛生
  - WHOやCDCから直接情報を得ている専門家が的確

3

## では、日本のケイジ・フクダ氏は？

- 事実と対策を、科学的に、責任をもって語るスポークスパーソンが見えてこなかった
- 「日本政府の情報提供はひどくないか？」  
(2009年4月30日時点、私の個人的メモ)
  - 政府関係者が部署ごと人ごとばらばらに違ったことを言っているのか？
  - 米国の[www.pandemicflu.gov](http://www.pandemicflu.gov)のようなインターネットを通じた一元的な情報提供は日本でもできないのか？

4

# 「強毒」「弱毒」というメッセージのぶれ

- H1N1の重症度が国民の注目点。統一した言葉で語ってほしかった。しかし、「強毒型」「弱毒型」という言葉の定義がぶれたまま使われメッセージが混乱した。
- ウイルス学者は、H5N1鳥インフルエンザを「強毒型」、H1N1を「弱毒型」と区別していた。（HA開裂部位のアミノ酸配列の違い）
- 一方、政府関係者でも、「スペイン・インフルエンザは最初は弱毒であったのが強毒化した」と説明する人がいた。
  - 「重症度(致死率)が低かったのが、(何%に)高くなった」が妥当。
  - スペイン・インフルエンザH1N1は、ウイルス学的には「弱毒型」。
- 受け手は、H1N1が「恐怖のウイルス」になる不安を感じる。
- 米国では重症度で語られ、このような混乱は見られなかった。

5

## 一般向けの平易な発信をした米CDC

- 新聞記事では、病気の説明や、予防対策などは米CDCのWeb情報を参考に書いていた
- 専門家向けのガイドラインだけでなく、一般市民向けに具体的にわかりやすく説明していた
  - 感染経路と予防方法、手洗いの方法
  - 病気の症状、ハイリスク者、治療方法など
- 日本の政府系Webも平易な一般国民向け情報を早く提供できるように工夫してほしかった

6

# 国立感染症研究所の情報提供

- 専門家と記者の意見交換会が有効だった
  - パンデミック前から感染研の専門家と記者との間で感染症に関する意見交換会を開催していた
  - 豚インフルエンザH1N1の発生で頻繁に開催→科学的でわかりやすい記事に繋がった
- サーベイランス情報の提供 現状把握に有効
- 家庭でできる予防法などを、子どもでも理解できる親しみやすい動画番組

7

## 新聞での情報伝達の工夫

- マスク姿の写真を頻繁に載せて良いのか？
  - マスクをつけている人々の写真が頻繁に載った
  - 街ではマスクの品薄が起きている
  - そもそも、普通のマスクは感染予防になるか？
  - では、手洗いの写真を載せよう
- 小さな連載記事で継続的に事実を伝える
  - 「よく効く知識」(19回、大阪本社版)
  - 「新型インフル ワクチン」(24回)
  - 「新型インフル どう対応」(22回)

8

# H1N1パンデミック発生前の理解

これから起こってくるパンデミックがどんな事態になるのか、国民に正しく伝わっていたか？

必要以上に恐怖感を煽ることはなかったらうか？

訓練も「恐怖のウイルス」の想定だけで良かったのか？



第4回新型インフルエンザ対策総合訓練、愛知県で=2009年1月、浅井撮影 9

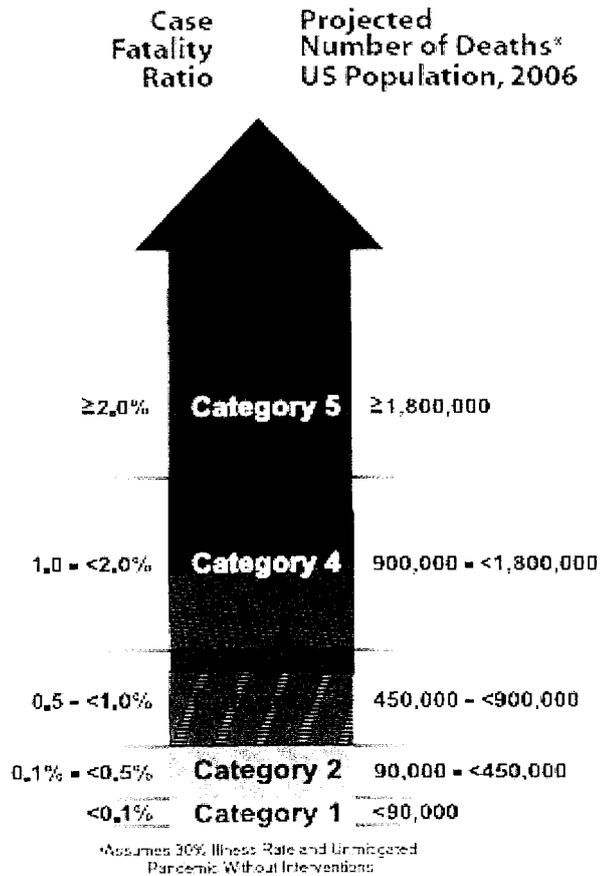
## 国の総合訓練（2009年1月13日）

- 第4回新型インフルエンザ対策総合訓練
- 愛知県・知多厚生病院で実動訓練を実施
  
- 場面① 最初の患者発生（海外から帰国）
- 場面② 発熱外来で患者の振り分け
  - 患者数は8人 1人ずつ医師の診察を受ける
  
- 患者が多発する事態を想定した訓練はなかった  
→パンデミック訓練なら、これが必要ではないか？

# 米国の被害 想定は5段階

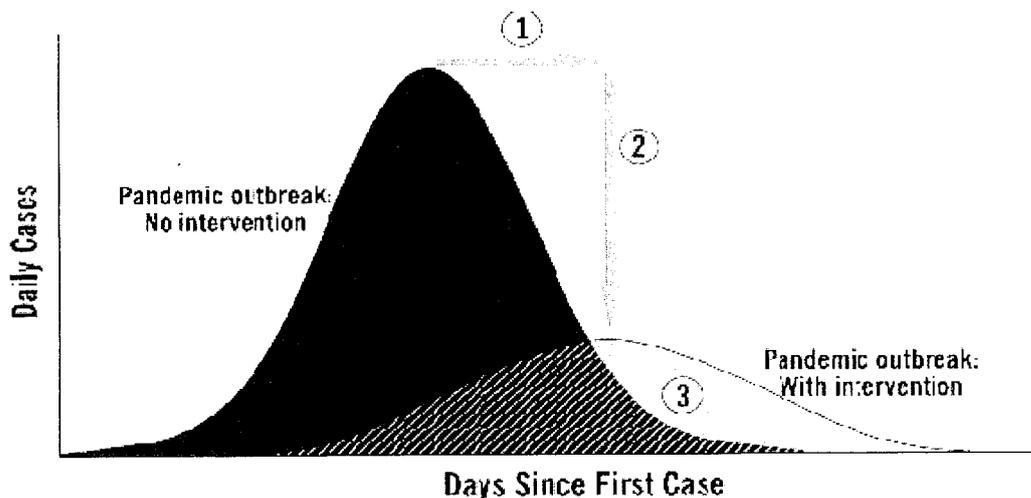
- 重症度の事前  
予測は不可能
- 致死率2%以上  
スペインかぜ級
- 0.1~0.5%  
アジアかぜ級
- 0.1%以下  
季節性並み

CDC: Interim Pre-pandemic Planning  
Guidance: Community Strategy for  
Pandemic Influenza Mitigation in the  
United States, 2007



11

パンデミック対策の基本は「封じ込め」  
ではなく、被害軽減 (mitigation)  
流行のピークを下げ、遅らせる



季節性インフルエンザでやっている対策の延長線上にパンデミック対策を置く

12